

荘銀グループ  
展望台

変化が激しい時代の資産形成

生涯設計をしつかり



荘内銀行  
資産運用サービス部  
土門 満

極めて早いスピードで高齢社会に突入し、全人口の一六%、つまり六人に一人が高齢者（六十五歳以上）となっている。このような状況において生涯設計をどのように考えればよいか。なかんずく資産形成をどう考えればよいか、考察する。

ファイナンシャルプランニングの時代

高齢社会を迎え、社会構造が大きく変化していく中で、従来の社会福祉制度が維持できなくなつて来ており、個人資産をいかに有効に運用・管理・設計（ファイナンシャルプランニング）するかが重要となっている。また、個人の生涯設計に合った資産形成をどのように図るかが問われる時代となつて来ている。一般に、長い人生において資金が不足する

ときが三回ある。

マイホームを購入する時、  
子どもの教育負担が大きい時、  
年金以外の収入がなくなる老後である。

特に老後に貯蓄がないと生活して行くうえで心細いものである。

しかし、現在の高齢者世代は、他の世代と比べ暮らし向きに余裕を持っている。貯蓄広報中央委員会「貯蓄と消費に関する世論調査」（表1）を見ると、若年層からいわゆる「団塊

の世代」にかけて老後の生活不安を示す人々が年々増大する一方、高齢者になるほど、将来への暮らしを心配する人が少ない。老後の生活を心配していない理由の中で高齢者世代では「年金や保険があるから」との回答が一番多い。また、同調査（表2）の世帯主年齢別貯蓄状況を見ても、高齢者世代の貯蓄残高は、現役世代を上回っている。つまり現在の高齢者世代はフロー・ストックとも充実していると言える。

問題は、今の三十〜四十歳代以下の年代層である。この年代層は、老後資金の絶対量が不足するおそれがある。昨年の年金制度の改革により

支給水準の引き下げ、  
支給開始年齢の引き上げが行われ、年金は今後も先細りの傾向にあり、これから入ってくる収入にも不安材料が多い。

若年層の資産形成

資金の不足分は投資によって殖やすことが必要となる。今後は長期にわたる投資をやるかどうかで将来の生活状況が大きく変わってくる。しかし決して焦る必要はない。なぜなら、この世代は住宅取得や教育などの未消化のイベントが数多く残っており、これらのイベントの優先度が高いからである。

同世代に一步先駆けで老後資金の準備を始めることができる人は、「若さの特権」を生かして、投資信託でも比較的风险の高いもので準備を行うことができる。若いから損してもやり直せるということではなく、運用

表1 世帯主年齢別の老後の暮らしについての考え方

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
それほど心配していない	17.6	11.1	12.3	20.7	28.6	40.7
多少心配である	57.3	54.9	54.8	50.4	49.1	44.9
非常に心配である	24.4	33.9	32.9	28.8	22.0	14.4

単位：世帯割合% 貯蓄広報中央委員会「貯蓄と消費に関する世論調査」平成11年度

表2 世帯主年齢別の貯蓄状況

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
貯蓄総額	321	684	1,038	1,449	1,857	1,758
預貯金（除郵貯）	145	220	344	518	783	767
うち定期性預金	72	136	245	385	608	613
郵便貯金	76	115	181	253	346	398
うち定期性預金	50	91	148	202	300	347
貸付信託・金銭信託	0	7	28	38	44	71
生保・簡保	46	173	271	319	336	230
損害保険	1	10	21	28	48	35
個人年金	4	31	52	94	91	32
債券	0	14	14	8	30	43
株式	15	58	62	119	121	137
投資信託	3	9	13	7	22	28
財形貯蓄	29	44	46	59	23	11
その他金融商品	2	3	6	6	13	6

単位：万円 貯蓄広報中央委員会「貯蓄と消費に関する世論調査」平成11年度

期間が長いことでリスクの分散は図ることができるからである。  
 来年から確定拠出型年金制度（日本版401kプラン）が始まる。この制度は米国で成功を収めた制度を参考に導入され、税制上の優遇措置のある老後資金づくりの方法として期待が集まっている。しかし、導入に向けて準備を進めている企業も見受けられるが、こ

の制度の適用を受けられる人は限られており、急速な普及は難しい。ただ言えることは、自助努力・自己責任での資産形成がより一層強く求められることである。

荘内銀行ではいち早く積み立て投資信託（定時定額購入サービス）を発売している。「定時定額購入サービス」は荘内銀行で取り扱っている投資信託商品の中から選択して毎月一定の金額で少しずつ買い付けられるものである。

投資判断はとかく市場の動向に左右されがちである。値上がりが続くと買いたくなくなり、値下がりが続くと買いきいものである。しかし、毎月同じ金額を購入する方法（ドルコスト平均法）ならば、ファンドが値下がりしていればより多くの口数が購入でき、値上がりして高いときには口数を抑える効果がある。毎月無理なく、結果として低コストで長期にわたる資産形成を行うことができる。

#### 資産形成の終えた年代層

資産をすでに形成し終えた高齢者世代では、いかに安心して資産を使っていくかというプランが重要となる。蓄えた資金の使い道を明確にすることで、自ずと利用すべき金融商品が絞り込まれてくる。資産を保有する高齢者世代は、次の三つの目的を持っている。これまでがんばって来たから、今後はゆとりのある生活を送りたい。病気などの不測の事態に備え、資金を確保しておきたい。子どもにある程度の財産を残してあげたい

ということである。

この中で重視すべきことは、の生活を樂しむために使う資産である。資産運用というと殖やすことが目的のようにとらえられている。しかし、貯蓄とはそもそも将来、収入より支出のほうが多くなったときに備え、余裕がある時に蓄えておくのが目的である。高齢者世代はまさにその時期にある。「どのようにすれば安心してお金を使っていけるか」の相談に応じていくことも荘内銀行の役割のひとつと考える。

#### ライフプラン作成の勧め

現在のような変化の激しい時代には、夢や目標を実現するために健康はもちろん不可欠なことである。しかし、その実現の手段として資産形成、環境変化での正しい方向性の選択を行うためには、十分な知識が求められると同時に生涯設計（ライフプラン）をきちんとたてる必要がある。また、ライフプランをたてる時、自分自身の人生の夢や目標を明確にしなければならぬ。ライフプランは、夢や目標を具体的に実現することを助け、生活に対して漠然とした不安を取り除くものである。ぜひ一度、実際に綿密なプランを作成することを勧めする。また、一度たてたライフプランは定期的に見直ししていくことも必要である。

荘内銀行ではライフプラン作成上の資産形成に関して、いつでもご相談に応じられる体制を整えている。今までそんなことなど考えて来られなかった方は一度荘内銀行へご相談いただきたい。